ほ～おん通信

NO.69 2015 秋号
年四回 不定期発行

発行：鯖江市杉本町 31-42　報恩寺
編集：林　暁　T/F 0778-51-6064
e-mail　satoru@utopia.ocn.ne.jp

おうちのみんなで読んでね

報恩講のこころ

親鸞聖人のみ徳に、本当に「身を粉にし、骨を砕きて」報謝しているか、報恩講の法要の中で静かに考えたく思います。

「如来大悲ノ恩徳ハ　身ヲ粉ニシテモ報ズベシ　師主知識ノ恩徳モ　ホネヲクダキテモ謝スベシ」は「恩徳讃」と言い、浄土真宗の教えに導かれている私たちが、常に耳にし称えている親鸞聖人のご和讃です。

ここには親鸞聖人が阿弥陀仏の大悲の恩徳を知り、またご自身を阿弥陀仏の教えに導いた七高僧、なかでも法然聖人の恩徳を知って、すべてをなげうってこのご恩に報ずべきであり、感謝すべきであるとの聖人の念仏道が示されています。

福島子どもサマーキャンプ　一番人気！
鮎川海水浴場にて　岩からジャンプ！

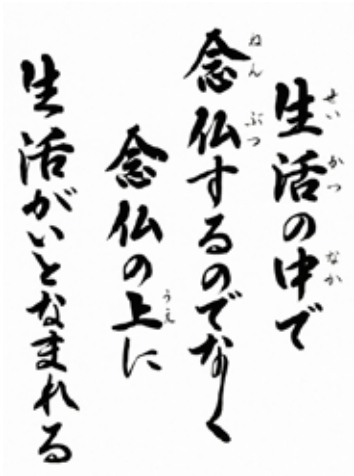
聖人は 29 才まで比叡山にて一心に悟りを求められました。けれども結果は逆に、苦悩と挫折のどん底に落ち込まれてしまわれました。その苦悩の親鸞聖人に、法然聖人が南無阿弥陀仏の真実功徳を教えられました。その教えによって、如来の大悲はすでにこの私を摂取なされているという、弥陀の本願を信じ念仏を喜ぶ心が聖人に開かれたのです。もし法然聖人に出会うことができなかったとしたら、ふたたび、永遠に迷うしかありませんでした。

この恩徳を報謝するのがこの和讃の心です。もし親鸞聖人が弥陀回向の念仏を明らかにされていなければ、私たちは弥陀の本願に出遇えていないはずです。厳しい言葉使いですが「身を粉にして骨を砕きて」報謝しているか、法要を通じて静かに考えたく思います。（出典　仏教家庭学校）

嫌な相手ともなんとかして
一緒に生きて行くことを
考えなければならないのだと
思います。
ぼくが言いたいのは、
戦争にならないように日頃から
がんばって、
みんなが戦争なんてしなくても
すむ世の中にしよう、という
ことです。
戦争しなくていいんだから、
軍隊なんていらなくなります。

「ぼくは戦争は大きらい」（小学館）
やなせたかし

法語カレンダー⑤（和田稠　一九十六～二〇〇六）



◆和田氏は石川県生まれ、真宗大谷派浄泉寺住職、大聖寺高校校長などを歴任され多数の著作を残されました。今回の法語は『信の回復』からの一節。それは、何が私たちの価値判断の基準になっているのか、ということです。

誡められるのは、価値判断の基準が生活にあり、その上で念仏申すすがたです。お念仏によって生活が問われることはありません。一方、勧められるのは、お念仏によって日々の生活を問い、価値判断の基準をお念仏とするすがたです。

親鸞聖人の「御消息」（お手紙）第二通には、「（皆さんは）釈尊と阿弥陀仏の巧みな手だてに導かれて、今は阿弥陀仏の本願を聞き始めるようになられました。以前は無明の酒に酔って、貪欲、瞋恚、愚痴の三毒ばかりを好んでおられましたが、阿弥陀仏の本願を聞き始めてから、無明の酔いも次第に醒め、少しずつ三毒も好まないようになり阿弥陀仏の薬を常に好むようになっておられるのです」（現代語訳）とあります。

私たちは縁起の道理を知らず（無明）、それゆえ自分中心の心にとらわれて、自らの都合の良いものを貪り（貪欲）、都合が叶わぬものに対して激しい怒りや憎しみで退け、真理からますます離れた迷いを深めています。それら煩悩の病を治す薬としてお念仏が譬えられるのです。

お念仏にこめられた阿弥陀仏の智慧と慈悲を前提として私の生活を問うとき、自らの愚かさを恥じ、できるだけ慎もうという働きが生まれます。私の生活ぶりが変革せざるをえないのです。（引用「月々のことば」）

教えて、お坊さん ⑤　「お釈迦様って仏さまなの？阿弥陀さんとは違うの？」

真宗では親鸞聖人のお話はよく聴くが、お釈迦さま（釈尊）の話はあまり出て来ないかもしれない。まず、「仏」とは真実に目覚めたもの、完成された悟り自体を指し、抽象的象徴的存在とみなされている。同時にそれは人間が目指すべき尊い生き方であり、苦に喘ぐ我々衆生を救う働き、よりどころである。

仏教がおこって数世紀、教義が高度に理論化され、また救いの働きが多様化されるにつれ、経典にさまざまな仏が登場してきた。阿弥陀仏は、浄土三部経などに詳しく描かれ、その存在が名前（名号）となった仏さまである。誰でも分け隔てなく極楽浄土へと往生させる力を備え、浄土宗及び浄土真宗、時宗でのご本尊である。

一方、お釈迦さまは 2500 年程前に実在した人物で、名をゴータマ・シッダルタと言う。釈迦族という小さな部族の王子だったということが分かっており、苦行の末に瞑想によって、人間を巡る世の中の道理「法」を明らかにされた。その断片的な言葉がのちに整理され体系づけられ、さまざまな経典が編まれ、仏教となってアジア各地に広まって行く。

その過程で、釈尊の偉大さが尊ばれ、前世での修行によって至上の悟りを体現されたという考えが起こり、宗派によっては釈迦如来という仏として拝まれている。浄土真宗ではお釈迦様が教えの主、阿弥陀仏が救いの主であり、「前に弥陀、後ろに釈迦、中はわれ、おされひかれてまいるうれしさ」などと語られる。（参考「高校生からの仏教入門」ほか）

「あしたが　まっている」

わたしは　わすれないぞ
ひとのはなしを　ちゃんと　きかないで
むりやり　おかしなきまりを　つくったおとなを
「けんかはいやだ」のきもちを　わがままと　きめつけて
ばかにしていた　つめたいおとなを

ぼくは　わすれないぞ
こわがらせて　いばっていた　おとなのかおや
こわがって　ぺこぺこしていた　おとなのかおを
たいせつな　おはなしをしているのに
ぐうぐう　ねていた　おとなのかおを

わたしは　わすれないよ
おかしいことは　おかしいと　つたえようとした
おねえさん　おにいさんたちの　しんけんなかおを
おばあさん　おじいさんたちの　おおきなこえを
だれにも　あやつられない　おとなたちの　ゆうきを

ぼくは　わすれないよ
つらいおもいでを　むねにして　たちあがった　おとなを
きっぱり　むねをはって　こぶしをつきあげた　おとなを
きいてもらえないかも　しれないのに
ずっと　こえをあげつづけた　たくさんの　おとなたちを

きょうからは　わたしが　ぼくが　はじめるんだ
おとなが　まちがったら　わたしたちが　なおす
ひとのはなしを　きけるひとを　ぼくたちが　えらぶ
じぶんかってな　おとなは　わたしたちが　やめさせる
「じゆう」や「へいわ」は　ぼくたちの て で　つかむんだ

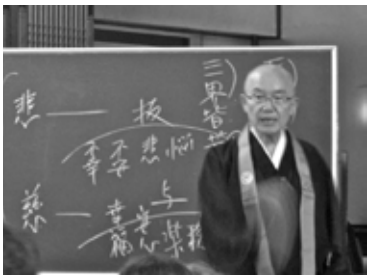
わたしは　わすれない
ぼくは　わすれない
まだ　なにも　おわっていないから
あしたが　まっているから

じゆうとへいわのための　きょうだいゆうしのかい

この詩は、「自由と平和のための京大有志の会」が発表した『あしたのための声明書』を子ども語訳にしたもので、上記の絵本『わたしのやめて』に収録。元の文もそうだが、大変訴える力が強い。

八割方の有権者が採決反対や慎重意見の中、安保関連法案が多くの疑念を残して一応可決された。多数党だから通るのは仕方がないとよく言われるが、一般国民や専門家の意見も聞く姿勢を見せず、長年自らを縛ってきた憲法解釈を一内閣が勝手に変え、正規の手順をないがしろにした議決もどきが通るのなら、国会審議も不要の独裁政党と言われても仕方がない。それを容認する大人は、子どもに問われたときどのように納得させるのだろうか。論理が破綻し、言い訳や説得が通じない時、人は権力や武力に訴える。金も使う。しかし隊員も予算も、活躍を待つ優先場所は他にもある。

「ボーっとしてては、あきまへんで」寺族婦人教室へ初めて参加して・・・・・



◆去る９月３日、福井教区寺族婦人会で開催される「移動教室」へ初めて参加させていただきました。会場は越前和紙の里近くの円成寺様。事前に、住職である主人より「今回、法話される『天岸浄園』先生は、全国でも名の知られた大阪のお寺さんで、お話がとても分かりやすく、布教伝道の偉い先生なんだよ」と聞いておりました。

壇上に立たれた先生は、ときに屈託なく笑われ、ときに真剣な眼差しを私たちに向けながら、柔らかな関西弁でお話をしてくださいました。テーマは「南無阿弥陀仏という生き方」。いつも体を動かす仕事をしている私は、座って五分もたたないうちに、うつらうつらしてしまうのですが、先生のお話の明確さとユーモアで、すっかり先生のご法話の世界に引き込まれてしまいました。

中でも、はっとさせられたのは、「葬式は人間の卒業式、それはすなわち仏様への（お浄土）への入学式です。だから、忙しいんですよ。仏さまとなって働くのですから、（すぐ働くことができるように）虚しく人生を終わらせないのですよ。ボーっとしてては、あきまへんで～。実り豊かに生きるんですよ」と、おっしゃられたことです。

些細なことに不平不満を感じ、先々を不安に思うことも多いのですが、その時は、「そうか、死んだら、死んだーではなく、仏様の国へ行き、働くんだなー。すぐ働くことができるように実り豊かに生きることが大切なんだなー。仏教ってすごいのー（今更か！？）」と、先生のお話が素直に私の中へ入ってきました。

法話を聞かせていただいたあと、うまく伝えられないのですが、仏様に対する安心感が生まれ、仏教を身近に感じることができる環境がありがたいことなんだと思いました。とはいえ、すぐ忘れて、元に戻ってしまうのが私です。「ボーっとしてては、あきまへんで～」の天岸先生の言葉、大切にしたい一言となりました。(C)

今年は夏から秋が例年にもまして早く、火山噴火や地震など、天も大地も穏やかではないですね。強烈な水害の被害に遭われた方には心からお見舞い申し上げます。

さて、四回目の福島子どもサマーキャンプにご協力をいただいた皆様、どうもありがとうございました。百名を越えるスタッフとともに、七泊八日の日程を楽しく過ごすことができました。

今回は徳尾町の方と夕食交流会や、北陸高校和太鼓部の演奏、鮎川では一泊のホームステイなどもあり、子どもたちも、「帰りたくない！」とか「また参加したい！」とのコメントも数多く、来年もまた実施の予定です。現場は体力気力も必要ですが、少しでも放射能汚染から離れて遊んでもらい、毎年来てくれる子の成長が私たちの楽しみとなっています。（S）

ご質問
ご感想
投稿も
大歓迎